



## 子供から始まる街の防災の取組



千葉県八千代市 みらいスマイルコミュニティーズ  
(旧みどりサポートチーム) 代表 鈴木 介人

### 1 防災への取組のきっかけ

今回ご紹介する防災の取組を始めるきっかけは、東日本大震災でした。地区全体が停電となり、18時近くになって、小学校はどうしているのか、自然と足が向きました。学校は避難所となっていて、マンションの方、電車利用の方の多くが、避難してしていました。そこでは、教職員と市職員で避難所運営をしており、私は住民として毛布を運んだり、おにぎりを配ったりと動きました。その時、平時から「防災」に向き合わなくてはならないと思いました。

### 2 実施までの道のり

防災といっても、まずは学校側との信頼関係を作ることに始まりました。開校2年目というタイミングもあり、「地域と共にある学校づくり」を目標としていたのも好都合でした。その流れで学校側と相談して、内閣府の防災教育チャレンジプランに防災教育への企画の申込をさせて頂きました。お互いにまさか採用されるとは思っていなかったのですが、企画が通ったことで、学校を巻き込んで、さら



消火の手順を広めるために駅前での消火訓練

に地域の自主防災組織を巻き込む形にすることができました。正直なところ、八千代市において大規模な被害が無かったために、防災への関心があまり高くないことも感じました。そのため、最初の企画としては、実際に避難所となった学校の体験を目的とした、親子参加の体験型のキャンプを実施しました。

### 3 目標を上げろ

当初は、1年限りの単発企画で終わるのでは思っていたのですが、防災キャンプを終了したときに校長先生が、「継続は力なり、続けましょう！」と仰ってください、翌年以降も継続して続けることができました。3年目の企画を組み立てる際には、校長先生が異動で替わり、赴任された新しい校長先生から「防災キャンプの取り組み方を変えて、より実践的にしてほしい」と助言を頂きました。

さて、どうしようかと悩みました。何か子供たちの現状の社会知識を利用して、なおかつ防災意識を高めたいと思って、大人向けの避難所運営ゲームを子供向けにできないかと考えました。そのヒントをくれたのが先生との雑談です。「イラストを使うと意思疎通がす



みどりバージョンの避難所運営ゲーム（イラスト入り）

ぐにできますよ！」との言葉がパッと頭に浮かび、「イラスト入りにして、小学生でも理解しやすい避難所運営ゲームを作ろう」と考えつきました。

また、この避難所運営ゲームにプラスして、課題や思考能力向上を目指してのグループディスカッション方式での展開を織り交ぜ、付箋を使ってグループでの意見がでるようにするなど、学校教育の手法を取り入れて、小学校の総合学習授業に応用できるようにしていきました。避難所という特質上において、高齢の方や障害者の方への配慮など、今日の共生社会に向けての理解を深める教材として非常に高いのではないかと考えています。それらのことから、このような取組は、学校関係者の目に止まり、近隣地域の小学校での出前授業を行うようになりました。



県教育委員会主催での各グループによる発表の様子

#### 4 避難所運営組織からの課題

防災教育としては深まり、避難所運営委員会の立ち上げまで進めることになりました。災害はいつ起きるかわかりません、避難所運営会議を進めるうちに色々な課題が出てきました。まずは、自治会の温度差があり、古い自治会は、高齢化が進んでいます。マンションのような共同住宅では、自治会に加入する世帯が少ない、新規の住宅地では自主防災組

織を作らない、開校したばかりの小学校を知らない人もいます。街として重大な問題を抱えていることを知りました。

そこで、街のコミュニケーション作りとして、「みどりナイトコンサート」という企画で、無料のコンサートを年一回学校で実施して、地域の人に知ってもらうようにして、横のつながりを模索するとともに、次なる一步としては「みどりサミット」としてタウンミーティングを開催するに至りました。私は、防災というと、最初は防災訓練中心と考えていましたが、今は街全体をどうしていくべきかと考えて、「人を知る」「地域を知る」ことを進めています。

#### 5 防災の継続に向けて

今年で6回目となった防災キャンプは、小中高校からの生徒が今年からそろって参加し連携することができましたが、私には社会が防災意識を持つことを、忘れ始めている印象がみられてきました。そのため、来年度は、学校側と相談して、「みどりコミュニティスクール」として、子供から大人までが学べる地域の学校づくりを企画したいと思っています。これは、地域の人に先生になってもらって、防災から歴史、科学の講座などを作り、地域間の交流を活発化するものです。私がこれまでの取組から知ったのは、多くの地域資源があることです。気象庁のOBや、災害時のイザというときに派遣される仕事をしている方が多い地域です。それらの人が先生となって、地域のイザというときに役立つカリキュラムを作り、防災力の基礎を底上げして、災害時に打ち勝つ能力を地域に広げたいと思っています。地域には、沢山の宝の山があります。それをみんなで色々と掘って、地域を防災に打ち勝つようにしていきたいと思っています。